



高雄園區產官學促進會成立(9月7日)

産官学協力

高雄園區産官学促進會が2005年9月7日正式に発足した。大学や専門学校、本管理局事業所などによって組織されている。義守大学校長・傅勝利が理事長を務め、相互協力によって産官学協力事業の推進を行う。促進会は産官学協力発展の架け橋として、産業界のより一層の国際競争力向上に向け協力機会の提供を行う。研究部門における研究成果は産業界を通じて市場経済に活力を与える。投資環境ならびに学術部門の研究環境の育成をはかり、双方ともに勝ち組を目指す。

産業専門区域の企画

オプトエレクトロニクスの集積

高雄園區では、展茂(Allied Material Technology)、瑞儀(Radiant Opto-Electronics)、鑫科材料(ThinTech Materials Technology)と東台精機(Tong-Tai Machine & Tool)といったオプトエレクトロニクス・パーツ組み立てメーカーや材料メーカーの園区内進駐が決定している。このうち、展茂オプトエレクトロニクス会社(Allied Material Technology)では542億円にのぼる投資がなされ、カラーレシオ・パネル工場を建設された。高雄園區初の投資額362億円超過の大型工場建設となり、2004年9月23日には陳総統を迎えて工場起工式典が開催された。また、奇美電子(CMO)は60ヘクタールの借地を予定しており、2006年4月には次世代TFT-LCD工場の建設を予定している。こうしたメーカーの設備投資によって、オプトエレクトロニクス産業が高雄園區に形成されつつある。



高雄園區オプトエレクトロニクス産業関係図



電信技術センターに成立したマルチメディア・テレビ測定実験室(12月26日)

電信特区

通信情報産業が、半導体産業と映像パネル産業に続いて第3の4兆円産出産業となるよう、高雄園區では逐次電信技術センターを核として電信特区となるよう発展がなされている。2005年は電信産業の誘致活動に重点がおかれたが、今後は工研院電通所に総合的な電信産業に関する企画を委託することで、同園區が電信産業にとって魅力的な優位性を発揮できるよう強化を行っていく。2005年12月、電信技術センターの「資産安全と公電実験室」は「財団法人全国認証基金会」(Taiwan Accreditation Foundation, TAF)のISO認証審査を通過し、国内初めてのISO 17025 (2005 版)国際実験室認証規範とISO 15408国際安全評価規範の認可を受ける資産通信安心測定実験室となった。また、当センターの「マルチメディア・テレビ測定実験室」は同月に經濟部標準検査局に認可され、国内初となるマルチメディア情報視聴機器測定の指定実験室となった。



バイオ医療技術器材産業專業地区推進委員会成立大会(10月3日)



医療技術器材メーカーと投資意思表明書にサインする(11月17日)

医療技術器材産業專業地区

南部の金属産業発展のため、高雄園區内にある土地14ヘクタールはバイオ医療技術器材産業專業地区として計画されている。2005年10月3日、財団法人金属工業研究發展センターと、周辺の大型医科大学(高雄医学大学、成功大学等)や病院(高雄長庚、高雄榮総、台南奇美、義守等)とが協力して「高雄園區バイオ医療技術器材産業專業地区推進委員会成立大会」を開催した。バイオ医療技術器材産業の集約に向けて力を出し合い、将来的には台南園區と高雄バイオテクノロジー園區とのシナジーによって、南台湾バイオテクノロジー産業の形成を目指す。